

〈研究論文〉

日本介護福祉士会の示す介護福祉士の 専門性及び生涯研修体系に関する 研修教材の課題

—文献検討による介護人材のリーダー的な
介護福祉士のキャリア形成の構築に向けて—

牛 田 篤

要旨

本研究は、日本介護福祉士会の示す介護福祉士の専門性及び生涯研修体系に関する研修教材の課題を明らかにすることを目的とする。その際、文献検討から、介護人材のリーダー的な介護福祉士のキャリア形成の構築に向けて考察する。本結果から、検索ワードに該当する書籍は、2冊であった。また、介護福祉士ファーストステップに関しては、ガイドラインは存在するが、該当する書籍はなかった。1冊目は、介護現場の実践者として、主に介護技術を重視していた。2冊目は、介護過程の展開による根拠に基づく介護実践をできるように、アセスメント能力を重視していた。研修教材として、社会福祉士及び介護福祉士法の改正に伴う介護福祉士に求められてきたこと、重視する視点を多角的に理解するためにも、どちらも使用することが有用であることが示唆された。一方、介護福祉士の専門性として示す指導・育成、環境整備や多職種連携、生涯研修体系、キャリアパス、介護人材のリーダーに必要な知識や技術に関する記載が不十分である課題が明らかとなった。本研究から、介護人材のリーダー的な介護福祉士のキャリア形成に構築に向けて

は、前述の課題について研修教材を改善する必要がある。今後の研修教材では、キャリア形成に関する研修の全体像と内容を示し、介護福祉士のキャリアパスと各研修を関連付ける必要があると考える。介護過程の展開に基づく根拠ある介護実践に加えて、リーダーシップ、フォロワーシップ、メンバーシップ等、指導・育成、環境整備や多職種連携に関する知識と技術を養う研修教材を改善する必要性が示唆された。

I 研究の背景と目的

厚生労働省の資料（2025年に向けた介護人材にかかる需給推計（確定値）について）では、日本の介護人材は、2025年に約38万人不足することが想定されている。そのため、近年の介護現場では、介護ロボットの活用および多様な介護人材の確保が急務である。その際に、介護ロボットの種類は開発されるが、介護現場における介護ロボットの導入は、なかなか進まない報告がある。その中でも、認知症高齢者等の見守りや介護記録の観点において、介護職員の業務や情報収集に関する負担軽減を目的とした介護ロボットの活用が複数報告されている。そして、前述に該当する介護ロボットでは、睡眠状況やバイタル等を情報収集することが可能である。そのため、施設サービスや居宅サービスでは、様々な介護ロボットの特徴を活かし、企業のデータシステムを連動させながら、介護におけるInformation and Communication Technology（以後、ICT）及びInternet of Things（以後、IOT）の普及が進みつつある。さらに、それらを活用した効率的な多職種連携実践や介護計画に関するアセスメント、客観的な情報収集に基づく個別援助計画の実践報告又は、介入効果に関する研究など、徐々に報告されている状況である。

また、多様な介護人材の確保においては、無資格者、有資格者に関係なく、若者から中高年者の層まで、厚生労働省等の資料では想定している。さらに潜在的有資格者や、外国人に対して、様々な取り組みが存在し、多様な

日本介護福祉士の示す介護福祉士の専門性及び生涯研修体系に関する研修教材の課題

ルールから介護人材の確保を行っている状況といえる。一方、多様な介護人材の確保を進める中で、介護人材の中核的且つ、リーダー的存在として、国家資格である介護福祉士を想定している。そのため、介護人材について、図1の通り、まんじゅう型から富士山型を目指すことを示し、介護人材に関するキャリアパスの明確化が議論され、同時に介護福祉士の特定処遇改善加算等の処遇に関する動きが存在する。

介護福祉士に対する社会的な期待は、社会福祉士及び介護福祉士法の誕生した1987年に比べて、年々増えていることは明らかであり、2007年、2011年の社会福祉士及び介護福祉士法の改正内容、厚生労働省や日本介護福祉士の資料、報告書から読み解くことができる。

さらに、2000年に介護保険が施行されて以降、改正がある度、明らかに介護保険サービスは多様化し、医療、保健、福祉の多職種連携による地域包括支援ケアシステムの構築を目指している。だからこそ、介護福祉士には、何が求められているか、介護福祉士のキャリア形成に関する研修は、内容について十分であるか、受講を推奨するばかりでなく、各研修の検証を行うことが必要であると考え。日本介護福祉士会では、キャリア形成研修について、図2の通り、介護福祉士基本研修、介護福祉士ファーストステップ研修、認定介護福祉士の3つの柱として、全体像を示している。さらに、日本介護福祉士会では、介護福祉士の専門性について、図3の通りとし、介護福祉士取得者と、それ以外の介護職については、図4の通り、専門性の差異を明示している。つまり、日本介護福祉士会では、職能団体の立場から、介護福祉士の専門性は、主に①介護過程の展開による根拠に基づいた介護実践、②指導・育成、③環境整備・多職種連携であると捉えている。

一方、日本の介護現場では、既に介護ロボット、ICTやIOTを活用した多職種連携実践が求められている。介護保険制度や障害者総合支援法に基づくサービスを利用する認知症高齢者や障害高齢者等は、ICFの視点から捉えた場合、多様な介護人材のみでは対応できないことばかりであり、複数の医

療、保健、福祉の専門職やボランティア、親族、民生委員、地域住民等も含めたインフォーマルサポートを必要としている。

日本介護福祉士会の示す通り、介護福祉士には、客観的な情報に基づく介護計画の実施、評価、修正というPDCAサイクル、まさに介護過程の展開に基づいた根拠ある介護実践が必要である。ただし、介護福祉士は、多様なルートによって、資格取得できる国家資格である。他の国家資格とは異なり、実務経験ルートによる資格取得者は、8割以上という実態である。そのため、資格取得のルートや学び方次第では、社会福祉士及び介護福祉士法の改正や、それに伴う介護福祉士養成のカリキュラム見直し、介護福祉士実務者研修の導入等の動向を把握しているとは言い難いと推察する。よって、介護福祉士の業や義務規定について、法律上において変更したことは、知識として理解していても、介護過程の展開に基づく根拠ある介護実践に関する知識と技術等には課題が生じる状況と推察する。また、日本介護福祉士会の示す介護福祉士の専門性については、介護福祉士であれば、既に獲得しているといえるか、どの程度の基準を獲得としているか、十分な検証はされていない。

今後の介護福祉士は、前述の3つの専門性を獲得し、それらに関する知識と技術を適切に実践することが厳しい場合、多様化する介護人材の中核的存在については、介護福祉士が担ったとしても、リーダー的存在には課題が生じる。もし、厚生労働省等の資料が示す介護福祉士に対する社会からの期待とは乖離した実態となっていく場合、日本は図1のまんじゅう型介護人材の構造を続ける状況となるであろう。

また他の国家資格を取得する専門職と比較した際、介護人材のリーダー的存在として、実践力に劣る場合、多職種連携実践において軽視され、社会的評価が低い実態となることが懸念される。図1のまんじゅう型の介護人材は、前述の課題について、改善されることなく、今後の動向次第では、北欧諸国のように准看護師に相当する存在が、介護人材のリーダー的存在を担

日本介護福祉士会の示す介護福祉士の専門性及び生涯研修体系に関する研修教材の課題

うことを検討することも、やむを得ない状況となるであろう。だからこそ、介護福祉士は、多様な介護人材の中核的且つ、リーダー的存在として、適切な知識と技術を身につけることが重要である。さらに、近年の多様な介護人材の確保という観点からは、介護福祉士には、リーダーシップのみでなく、フォロワーシップ、メンバーシップの理解が重要である。介護福祉士取得のみで、前述の内容を全て理解することは、介護福祉士養成カリキュラム見直しに伴い、2019年から段階的に導入している状況である。介護福祉士は、どのようにキャリア形成をするか、キャリア形成研修の構築は、多角的な研究および検討が求められている。

そこで、本研究では、日本介護福祉士会の示す介護福祉士の専門性及び生涯研修体系に関する研修教材の課題を明らかにすることを目的とする。その際、文献検討から、介護人材におけるリーダー的な介護福祉士のキャリア形成の構築について考察する。

日本介護福祉士会におけるキャリア形成研修では、図2の通り、介護福祉士基本研修、介護福祉士ファーストステップ研修、認定介護福祉士の3種類の研修が存在する。認定介護福祉士に関しては、まだ長野県、三重県、静岡県等、限られた県のみで開催されており、使用される教材は手探り状態である。そのため、本研究では、開催実態から、介護福祉士基本研修、介護福祉士ファーストステップ研修（以後、ファーストステップ研修）に関する書籍に焦点を当てることとする。

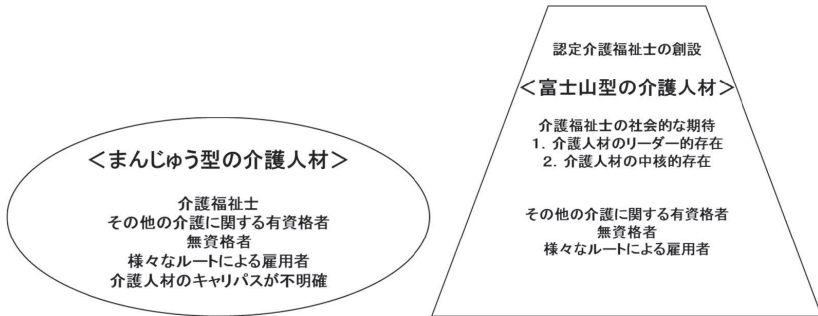


図1 厚生労働省『介護人材に求められる機能の明確化とキャリアパスの実現に向けて』
2017年10月4日報告書に基づき筆者作成

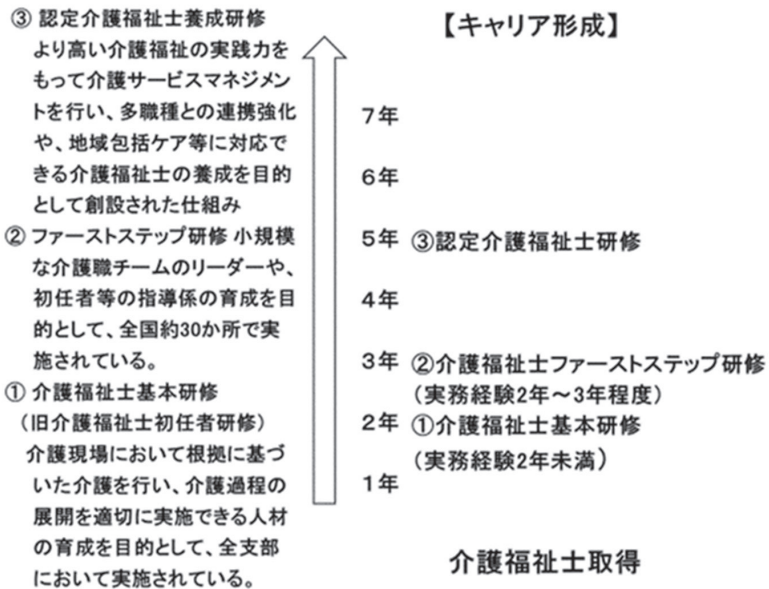


図2 日本介護福祉士会生涯研修体系におけるキャリア形成に関する研修の全体像

出典 厚生労働省『介護人材における介護福祉士の役割に係る意見書』第

日本介護福祉士の示す介護福祉士の専門性及び生涯研修体系に関する研修教材の課題

7回社会保障審議会福祉部会 福祉人材確保専門委員会 平成28年11月14日参考資料2（公益社団法人日本介護福祉士会 会長 石本淳也）に基づき、筆者作成

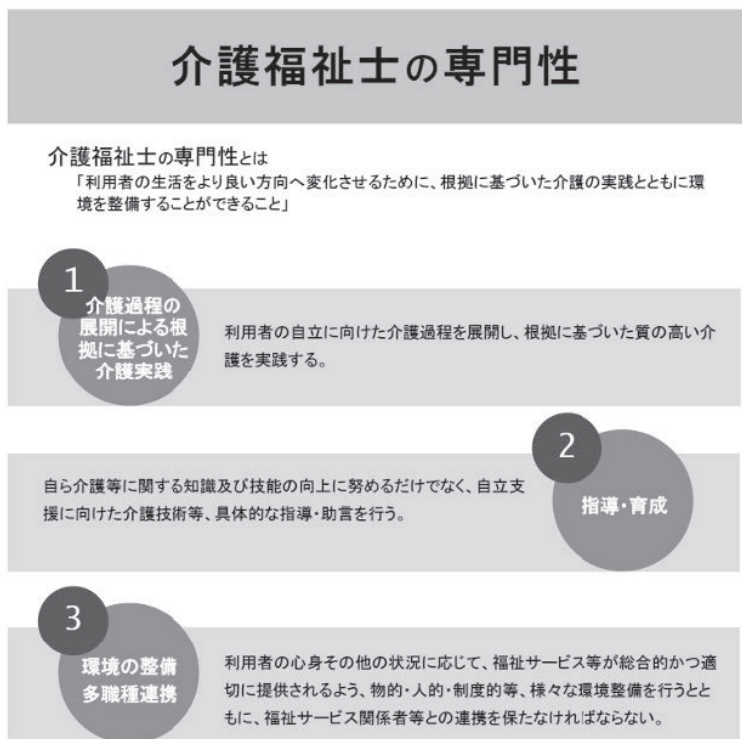


図3 日本介護福祉士の示す介護福祉士の専門性 注1

注1 出典 日本介護福祉士会ホームページより引用 8月15日
<http://www.jaccw.or.jp/fukushishi/senmon.php>

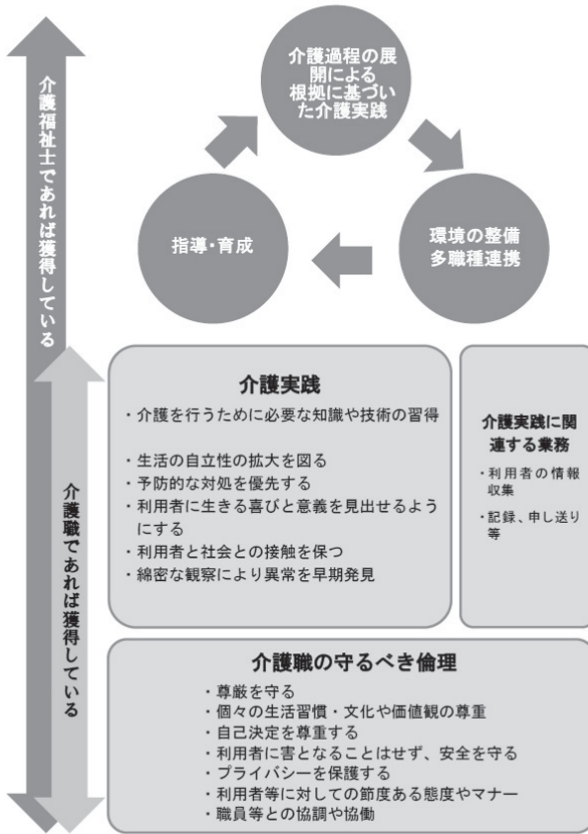


図4 日本介護福祉士会の示す介護福祉士と介護職との獲得の差異 注2

注2 出典 日本介護福祉士会ホームページより引用 8月15日
<http://www.jaccw.or.jp/fukushishi/senmon.php>

Ⅱ 研究の方法

1 対象

本研究では、介護福祉士基本研修、介護福祉士ファーストステップ研修に関する書籍を分析対象とする。

2 調査方法

1 調査手順

- ① 論文検索サイトのサイニー及び医中誌にて、「介護福祉士」「基本研修」の2語、「介護福祉士」「ファーストステップ研修」の2語に関して、論文を検索し、本研究の基礎的な資料とする。
- ② 国立国会図書館 蔵書検索・サーチ・デジタルコレクションにて、「介護福祉士」「基本研修」の2語、「介護福祉士」「ファーストステップ研修」の2語に関して、検索し、本研究の分析対象を検討する。
- ③ ②に加えて、日本介護福祉士会のホームページから、出版または、編集した書籍を調べて、本研究の分析対象を検討する。
- ④ ①から④の検討により、本研究における分析対象を選定し、文献検討を行う。
- ⑤ 文献検討の結果から、本研究の目的について質的に分析しながら考察する。

3 調査実施期間

2020年1月1日～2020年7月15日

4 調査内容

「介護福祉士基本研修」「介護福祉士ファーストステップ研修」に関する文献を調査する。

5 倫理的配慮

本研究は、人を対象とした研究でなく、人を対象とした臨床研究における倫理的配慮は必要としない。本研究は、文献検討しながら、質的に分析し、考察するため、倫理審査委員会の承認を得た後、研究を開始する研究ではない。

6 分析方法

本研究では、対象となった書籍について文献検討し、質的に分析を行う。

Ⅲ 結果

本調査から、介護福祉士基本研修については、2冊の書籍が該当し、その内容について文献検討することとした。また、ファーストステップ研修に関する書籍は、確認されず、認定介護福祉士と同様であった。しかしながら、ガイドラインは、確認することができた。そのため、ガイドライン1冊を加えて、文献検討することとした。本調査から、ファーストステップ研修に関しては、該当する論文の結果は、7件あった。ファーストステップ研修に関する7件の先行研究については、本研究の質的に分析する際の参考とした。

本調査から得た1冊目は、介護福祉士基本研修の前身ともいえる介護福祉士初任者研修用のテキストとして出版された書籍『介護福祉士初任者のための実践ガイドブック 日本介護福祉士会初任者研修テキスト』である。そして、2冊目は、介護福祉士基本研修用のテキストとして出版された『介護福祉士基本研修テキスト』である。また、ファーストステップ研修については、書籍がなく、ガイドラインのみであった。各都道府県において、介護福祉士ファーストステップ研修を開催する場合、『小規模チームのリーダー養成を目的とした介護福祉士ファーストステップ研修ガイドライン～研修の企画、展開の指針』に基づき、担当科目の講師にてシラバスを作成し、その講師の裁量にて教材を使用するため、共通で使用する書籍はなかった。

本研究における文献検討の結果から、1冊目の2007年に出版された『介護福祉士初任者のための実践ガイドブック日本介護福祉士会初任者研修テキスト』の全体構成は、表1の通り、第1章から第9章であった。編集を社団法人日本介護福祉士会が担当し、中央法規出版株式会社から発行していた。そして、基本的には各都道府県介護福祉士会では、表1の内容について、3日間又は4日間程度で研修を実施していた。第1章および第2章では、介護福祉士という国家資格に求められる専門性と職業倫理、その根拠法や関連制度について、まとめられていた。第2章および第3章は、対人援助職に求められるコミュニケーションおよび接遇について、基礎的な内容がまとめられていた。第5章および第6章では、介護福祉士に求められる技術であり、第5章は、主に介護技術の代表的な移動、食事、排泄、緊急時の対応について、基本的な内容ではあるが、具体的にまとめられていた。書籍全体の構成バランスにおいて、全体の3分の1は、5章の介護福祉士のための介護技術であった。第5章は、125ページでまとめてあり、他の章におけるページ数は、10ページ以上から30ページ程度であった。それらのことから、介護福祉士の初任者には、実践ガイドブックとして、介護技術に関する内容に重点を置いて研修教材は作成されていた。また、1987年に制定された社会福祉士及び介護福祉士法に基づく書籍であるため、介護福祉士とは、入浴、排せつ、食事、その他の業という立ち位置から、利用者の尊厳を尊重しながら、身体介護に関する専門的な知識と技術の実践という視点から構成されていた。自立支援、QOL（生活の質）、自己実現の視点は、十分な記載がなかった。そして、ICFの視点から生活を流れて捉え、食事、排泄、活動、清潔、睡眠・休養を生活支援するという、生活支援技術を学ぶ視点までの内容は、まとめられていなかった。第6章におけるページ数では、218ページから245ページまでの間に、介護過程の展開について、まとめられていたが、他職種のアセスメントシートを紹介する等の内容であった。介護過程の展開において、重要とされる情報収集、情報の解釈、関連づけ、統合化、課題の明確といった

アセスメント、計画の立案、実施、評価、修正に関する具体的な記載はなかった。介護現場において、具体的にどのように介護過程を展開するか、近年のように、介護福祉士として、介護過程の展開に関する重要性和、その実践能力は、強調されていなかった。第7章には、記録と報告、第8章には医学知識について、基礎的な内容がまとめられていた。最後に、第9章では、福祉用具の意義と活用がまとめられていた。書籍全体を通して、介護福祉士のキャリア形成の必要性和重要性を考える機会となるキャリアパスや研修体系、日本介護福祉士会の示す介護福祉士の専門性として挙げられている指導・育成、環境整備や多職種連携に必要とされる知識と技術に関しては、十分な記載はなかった。

表1 介護福祉士初任者のための実践ガイドブック 日本介護福祉士会初任者研修テキストの構成

はじめに
第1章 介護福祉士の専門性と職業倫理
第1節 はじめに
第2節 介護福祉士の専門性
第3節 専門職としての倫理の必要性
第4節 専門職の職業倫理
第5節 歴史にみる倫理的公準
第6節 おわりに
第2章 介護福祉士の法律と関連する制度政策
第1節 介護福祉士の資格制度成立
第2節 社団法人日本介護福祉士会設立に向けて～職能団体と介護福祉士の役割
第3節 法律上定められた介護福祉士の位置づけと義務について
第4節 介護福祉士と社会保障の関連制度
第3章 介護福祉士の仕事とコミュニケーション
第1節 コミュニケーションの目的

- 第2節 コミュニケーションの基礎知識
- 第3節 コミュニケーション技能を展開するうえで必要な基本的態度
- 第4節 介護職のコミュニケーション技法
- 第5節 コミュニケーションの具体的展開
- 第6節 利用者の特性に合ったコミュニケーション技術
- 第4章 介護福祉士の基本的態度
 - 第1節 はじめに
 - 第2節 介護と言葉遣い
 - 第3節 時間と約束
 - 第4節 人から見られている意識を大切にする
 - 第5節 介護現場での基本的対応
- 第5章 介護福祉士のための介護技術
 - 第1節 よりよい介護をめざした介護技術
 - 第2節 移動の介助
 - 第3節 食事の介助
 - 第4節 排泄の介助
 - 第5節 緊急時の対応
- 第6章 介護過程の展開
 - 第1節 介護過程を学ぶ意義
 - 第2節 介護過程の目的と理念
 - 第3節 介護過程の構成要素
 - 第4節 情報収集・アセスメントにおける留意点
 - 第5節 介護計画の立案における留意点
- 第7章 記録と報告
- 第8章 介護福祉士のための医学知識
- 第9章 福祉用具の意義と活用

2冊目の2016年に公益社団法人日本介護福祉士の編集によって、中央法規出版株式会社から発行された『介護福祉士基本研修テキスト』では、介護福祉士の初任者研修から、介護福祉士の基本研修と名称変更のみでなく、介護過程の展開に関する知識と技術を重視した内容となっていた。全体構成

は、表2の通りである。そのため、第1章では、介護過程を展開する前提として、2007年、2011年における社会福祉士及び介護福祉士法の改正について、具体的に介護福祉士の定義や義務規定の変遷などを示し、介護福祉士の業は、心身の状況に応じた介護であることがまとめられていた。2007年の社会福祉士及び介護福祉士法の改正に伴い、介護福祉士の誠実義務と資質向上の確保について、具体的に示されていた。

表3の通り、求められる介護福祉士像の12項目といった内容も示されていた。その中で、障害者総合支援法、地域包括ケアシステムなどに関する基礎的な知識もまとめられていた。そして、介護福祉士の初任者研修のテキスト内容とは異なる内容として、生活支援としての介護の視点や自立支援の考え方について、具体的にまとめられていた。第2章および第3章については、介護過程の内容であった。第2章は、介護過程の基礎的理解であり、第3章は介護過程の展開の実際であるため、『介護福祉士基本研修テキスト』のみを使用した3日間の介護基本研修である場合、介護過程研修といえる内容であった。歴史の変遷に触れる中で、今の介護福祉士に何が求められているか、改めて考える機会となる書籍であった。介護福祉士の専門性の1つとして、介護過程の展開に基づいた介護実践としているからこそ、専門職として、介護過程を展開する必要性と重要性、それらに関連する知識と技術については、書籍全体で丁寧にまとめられていた。資料編では、介護福祉士の専門性について、介護福祉士の専門性とは、「利用者の生活をよりよい方向へ変化させるために、根拠に基づいた介護の実践とともに環境を整備することができること」と明確に示していた。その中で、図3の通り、主に①介護過程の展開による根拠に基づいた介護実践、②指導・育成、③環境整備と多職種連携の3つが挙げられていた。しかしながら、『介護福祉士の初任者のための実践ガイドブック』同様に、書籍全体を通して、キャリア形成を考える機会となるキャリアパスや研修体系、指導・育成、環境整備や多職種連携、それらに関連する知識と技術に関しては、十分な記載はなかった。資料編にお

日本介護福祉士の示す介護福祉士の専門性及び生涯研修体系に関する研修教材の課題

いても、②指導・育成、③環境整備 多職種連携という記載がありながらも、表4のファーストステップ研修の全体像や時間数、認定介護福祉士の動向に関する内容、日本介護福祉士会や都道府県介護福祉士会という職能団体の中で取り組まれている生涯研修体系の実態や一例などの紹介も、記載がなかった。介護福祉士の資質向上の責務という義務規定の追加があるからこそ、その観点から、専門職としスキルアップやキャリアアップを考える機会に繋げる研修資料や学び方等があってもよいが、確認されなかった。一方、2冊とも、キャリア形成に関する生涯研修体系は、書籍の帯や注文用紙には記載されていた。日本介護福祉士会のホームページを確認すると、生涯研修体系におけるキャリア形成研修の内容を確認できた。しかしながら、図2のように、日本介護福祉士の示す生涯研修体系に関する全体図や解説などは、書籍内には記載がなかった。

表2 介護福祉士基本研修テキストの構成

第1章 介護過程を展開する前提として
第1節 求められる介護福祉士像
第2節 生活支援としての介護の視点
第3節 自立支援の考え方
第4節 介護福祉士に求められる知識と技術
第2章 介護過程の基礎的理解
第1節 介護過程の意義と目的
第2節 介護過程の具体的な展開
第3節 介護過程とチームアプローチ
第3章 介護過程の展開の実際
第1節 演習を進めるにあたって
第2節 事例1「障害者支援施設で生活するAさんの事例」
第3節 事例2「介護老人福祉施設で生活するCさんの事例」
第4節 事例3「自宅で生活するEさんの事例」
資料

表3 求められる介護福祉士像12項目

1. 尊厳を支えるケアの実践
2. 現場で必要とされる実践的能力
3. 自立支援を重視し、これからの介護ニーズ、政策にも対応できる
4. 施設・地域（在宅）を通じた汎用性ある能力
5. 心理的・社会的支援の重視
6. 予防からリハビリテーション、看取りまで、利用者の状態の変化に対応できる
7. 多職種協働によるチームケア
8. 一人でも基本的な対応ができる
9. 「個別ケア」の実践
10. 利用者・家族、チームに対するコミュニケーション能力や的確な記録・記述力
11. 関連領域の基本的な理解
12. 高い倫理性の保持

出典 厚生労働省『介護福祉士及び社会福祉士制度の在り方に関する意見』

社会保障審議会福祉部会 平成18年12月12日に基づき筆者作成

表4 介護福祉士ファーストステップ研修カリキュラム（計：200時間）

領域(合計時間数)	科目	時間数
ケア領域 (72時間)	利用者の全人性、尊厳の実践的理解と展開	16
	介護職の倫理の実践的理解と展開	16
	コミュニケーション技術の応用的な展開	16
	ケア場面での気づきと助言	24
連携領域 (48時間)	家族や地域の支援力の活用と強化	16
	職種間連携の実践的展開	16
	観察・記録の的確性とチームケアへの展開	16
運営管理基礎領域 (80時間)	チームのまとめ役としてのリーダーシップ	16
	セーフティマネジメント	16
	問題解決のための思考法	16
	介護職の健康・ストレスの管理	16
	自職場の分析	16

さらに、追加した『小規模チームのリーダー養成を目的とした介護福祉士ファーストステップ研修ガイドライン ～研修の企画、展開の指針』（以後、本研究ではガイドラインとする）では、はじめに「介護福祉士ファーストステップ研修は、従来のケアモデルを転換し『尊厳を支えるケア』を実行するための役割と能力を備えた介護福祉士のキャリアアップならびに、小規模チームのリーダー養成等を目的としている」と述べている。平成20年度厚生労働省老人保健健康増進等事業によって、全国社会福祉協議会から、2009年に作成されていた。ガイドラインの構成は、表5の通りである。ガイドラインであるため、詳細内容については、研修受講者よりも、介護福祉士ファーストステップ研修に関係する運営機関や担当講師が熟読する内容となっていた。前述の対象書籍とは異なり、小規模チームのリーダー養成といった研修目的が明確であった。さらに表4の通り、200時間の研修について、介護福祉士ファーストステップは、「ケア」領域、「連携」領域、「運営管理基礎」領域から構成されていた。200時間の研修については、自職場での経験や実践を振り返りをするため、事前学習および事後学習100時間を含むとし、他の受講生とのグループワークによる演習を重要視している内容であった。ガイドラインでは、チーム、リーダーシップ、マネジメント、キャリア等といった内容を示し、多様な介護人材の中における介護福祉士に求められる知識と技術を養うことができるように示されていた。領域の到達目標、評価、展開の考え方では、人材育成におけるPDCAサイクルの視点があり、キャリアパスやマネジメントを受講生自らが経験する内容となっていた。ガイドラインは、2009年以降に一度も見直しや、更新されておらず、日本介護福祉士会の示す生涯研修体系と関連付けて、講義することまでは、明記されていなかった。ファーストステップ研修の受講目安は、介護福祉士取得後2年程度という記載の根拠、フォロワーシップ、メンバーシップに関しても、ガイドラインの内容からは、十分な記載はなかった。ユニットケアや多様な介護保険サービスの中で、小規模リーダーの人材育成は、重要

とされていることは、確認できる内容であった。

表5 小規模チームのリーダー養成を目的とした介護福祉士ファーストステップ研修ガイドライン～研修の企画、展開の指針の構成

はじめに
Ⅰ「介護福祉士ファーストステップ研修」ガイドラインの作成目的と構成
Ⅱ「介護福祉士ファーストステップ研修」の実施枠組み
1 「介護福祉士ファーストステップ研修」の概要
2 研修の内容について
3 自職場等課題、通信学習について
4 修了評価について
5 講師・設備・教材等について
6 研修の実施時間・実施形態について
Ⅲ「介護福祉士ファーストステップ研修」の目標、評価、展開の指針
1 「介護福祉士ファーストステップ研修」の理念
2 領域の到達目標、評価、展開の考え方
3 領域の到達目標、評価、展開

Ⅳ 考察

本結果から、1冊目の『介護福祉士初任者研修』では、介護現場における即戦力として、多様な利用者に対する介護福祉実践において、介護福祉士には、具体的に何が求められているか、最初に介護福祉士としての倫理、その重要性に触れながら、介護技術に重きを置き、コミュニケーション技術や介護過程、福祉用具等、全般的に押さえた内容である。一方、『介護福祉士基本研修テキスト』は、介護福祉士の専門性の1つとして示しているからこそ、介護過程の展開を重点的にまとめた内容である。どちらの書籍においても、社会福祉士及び介護福祉士法の定義や義務規定を押さえている。

よって、多様なルートによって資格取得可能な介護福祉士において、前述の2冊の書籍を熟読することによって、介護福祉士誕生から、医療的ケアが

日本介護福祉士会の示す介護福祉士の専門性及び生涯研修体系に関する研修教材の課題

導入された2011年の社会福祉士及び介護福祉士法の改正頃までの介護福祉士に求められていること、国家資格を取得後、2年未満に求められてきた知識と技術については、十分に把握できる内容と考える。ただし、『介護福祉士初任者研修』や『介護福祉士基本研修テキスト』は、一冊のみでなく、2冊を通して熟読することによって、取得後2年未満の介護福祉士、潜在的有資格者や、介護福祉士取得を目指す介護職員にも、研修教材として有用であると考えられる。

介護福祉士初任者研修のテキストは、発行されてからの年数は経過しているため、介護福祉士基本研修テキストのみでは不十分であるが、特に1995年11月17日に宣言された日本介護福祉士会倫理綱領や自立支援を深く考える機会となり、今後求められる介護福祉士の高い倫理性を養うことにも、繋がると考える。

一方、前述の2冊のみでは、日本介護福祉士会の示す介護福祉士の専門性の基礎的なことを全て把握することが困難であると考えられる。さらに、前述の2冊のみでは、リーダー的な介護福祉士のキャリア形成の構築に向けては不十分であり、各都道府県の介護福祉士会にて独自の工夫が必要不可欠となる。前述の研修教材の課題について、現状では研修開催や研修内容、研修講師の選定等、全て各都道府県介護福祉士会の工夫で進めている。それでは、リーダー的な介護福祉士のキャリア形成に関する構築は、都道府県格差が大きくなり、日本では全国的に多様な介護人材の確保が進む一方で、リーダー的な介護福祉士を人材育成することには限界が生じると推察する。

日本介護福祉士会として、介護福祉士のキャリア形成に関する研修として、介護福祉士基本研修、ファーストステップ研修、認定介護福祉士を推奨し、開催し続ける場合、受講者数という点での開催実態の格差のみでなく、各研修の修了者が得る知識と技術の修得内容にも、質と量の格差という課題が生じることも推察できる。リーダー的な介護福祉士のキャリア形成の構築に向けては、特定の都道府県のみではなく、全国的に広がる仕組みでなければ

ばならないと考える。先行研究からは、ファーストステップ研修の運営実態は、既に各都道府県によっては、開催できていない状況があり、介護福祉士取得者の中でも、必ず全員が知っているという状況ではないことから、受講を推奨することに力点が入り易いが、各研修における改善点も検討し、取り組むことも重要と考える。

本結果からは、介護人材のリーダー的な存在として介護福祉士のキャリア形成を構築するために、介護福祉士基本研修に有用な教材は確認できた。しかしながら、近年の動向から内容において不十分な点があり、改善する必要がある。ファーストステップ研修の研修教材は、確認できなかったため、全国的な普及と定着を考える場合、必要である。不十分な点として、キャリアパス、キャリア形成に関する研修に関する全体像及びその説明、指導・育成、環境整備、多職種連携、リーダー的な存在に求められるリーダーシップ、フォロワーシップ、メンバーシップ等の知識と技術に関しては、不十分な内容であることが明らかとなった。

介護福祉士は、多様なルートから取得可能な現状であり、実務経験ルートにより、資格を取得する者が主流となりつつある。介護人材のリーダー的な存在になるためには、常にまんじゅう型から富士山型の構造を示し、介護福祉士の立ち位置、介護福祉士の専門性、そのために必要な知識と技術を修得する生涯研修体系を明確に示す必要がある。そして、同時にリーダー的な介護福祉士のキャリアパスを具体的に示し、段階的に能力を身につけ、社会的に求められる役割を担い、それに見合う評価を得る仕組みを構築することが重要と考える。

その際、介護福祉士の専門性、生涯研修体系について、介護福祉士の専門性として挙げている指導・育成、環境整備や多職種連携にも焦点を当てながら、キャリアパスの視点を強化することが必要である。前述に関しては、リーダーシップ、フォロワーシップ、メンバーシップの視点を適切に理解し、チームケア、経験年数に応じて組織的の一人として自らが何を担うか、

日本介護福祉士の示す介護福祉士の専門性及び生涯研修体系に関する研修教材の課題

具体的に学び、考える機会となる教材と、研修運営が求められると考える。

介護福祉士は、誠実義務や資質向上の責務等の義務を遵守し、自ら主体的に考え、具体的に目標を持ちながら行動できるように、教育や、研修の在り方が今後の課題である。介護福祉士養成カリキュラムでは、2019年度から段階的に、前述のキャリアパスの視点が教育に導入されている。既に取得した介護福祉士は、各自の知識と技術の質について、スキルアップと、キャリアアップの視点から、介護福祉士基本研修、ファーストステップ研修の意義と目的、研修内容を理解し、自職場の改善、今後の介護福祉士の社会的評価の向上のために、各研修の受講を検討する必要があると考える。

介護福祉士の生涯研修体系では、受講年数の目安が記載されているが、介護現場では、複雑な生活課題を抱える利用者と、多様な介護人材によって、日々向き合う状況である。だからこそ、指導・育成、環境整備や多職種連携によって、介護現場の中で、チームとなって、根拠に基づく介護福祉実践を取り組む必要がある。近年の処遇改善加算や特定処遇改善加算では、職場内でのキャリアパスが重要視されているからこそ、新人、初任者、中堅、ベテラン（熟練・熟達）、リーダーや主任等の管理職は、具体的なスキルアップと同時に、キャリアアップを連動させる視点を身につける介護福祉士の存在は必要である。

また2009年に介護福祉士ファーストステップ研修のガイドラインが作成されている。ただし、近年の状況からは、介護福祉士基本研修においても、ファーストステップ研修のガイドラインに記載されている連携の視点を追加する必要があると考える。今後の改訂版を検討する上では、表5のファーストステップ研修の目的と必要性、研修の全体像を明記し、その基盤として、表7の今後求められる介護福祉士像の見直しされた点を具体的に記述することが重要である。さらに、表8、表9の認定介護福祉士の全体像を資料編として、追加し、概要と実態、今後の動向を解説するだけでも課題改善に向けて必要と考える。また、筆者の先行研究から現在の介護福祉士取得者の多

くは、介護福祉士基本研修や介護福祉士ファーストステップ研修自体を把握していない課題も報告されている。介護福祉士会の入会説明時のみでなく、介護福祉士取得前の段階から介護福祉士実務者研修や、介護福祉士養成校の教育段階から、介護福祉士基本研修では、具体的に何を修得する必要があるか、日本介護福祉士会の示す介護福祉士の専門性に関連する基本を全般的に理解できる書籍に見直す必要がある。そして、次のキャリア形成を意識できるように、ファーストステップ研修の全体像、内容、目的と意義という記載も重要であり、ファーストステップに関する詳細な書籍、研修用書籍の作成を検討することも、今後の課題があるといえよう。さらに、販売方法として、『介護福祉士基本研修テキスト』に関しては、書店での購入はできず、日本介護福祉士会のホームページから、書籍の注文用紙を使用して購入する方法のみであった。本研究に用いた検索サイトからは、該当がなく、限定的な状況は、限定された展開であり、今後の検討課題といえよう。書籍の注文用紙には、介護福祉士基本研修、介護福祉士ファーストステップ研修、認定介護福祉士に関する記載があった。一方、書籍内には記載がなかったことから、キャリア形成に関する意識には繋がり難いと推察する。よって、表10の全体像を意識しながら、基本研修を開催し、ファーストステップ研修の受講に繋げることが重要と考える。

表7 今後、求められる介護福祉士像10項目+高い倫理性の保持

- | |
|---|
| <ol style="list-style-type: none">1. 尊厳と自立を支えるケアを実践する2. 専門職として自律的に介護過程の展開ができる3. 身体的な支援だけでなく、心理的・社会的支援も展開できる4. 介護ニーズの複雑化・多様化・高度化に対応し、本人や家族等のエンパワメントを重視した支援ができる5. QOL（生活の質）の維持・向上の視点を持って、介護予防からリハビリテーション、看取りまで、対象者の状態の変化に対応できる6. 地域の中で、施設・在宅にかかわらず、本人が望む生活を支えることができる |
|---|

- | |
|---|
| 7. 関連領域の基本的なことを理解し、多職種協働によるチームケアを実践する
8. 本人や家族、チームに対するコミュニケーションや、的確な記録・記述ができる
9. 制度を理解しつつ、地域や社会のニーズに対応できる
10. 介護職の中で中核的な役割を担う
+
高い倫理性の保持 |
|---|

出典 厚生労働省『介護人材に求められる機能の明確化とキャリアパスの実現に向けて』2017年10月4日報告書に基づき筆者作成

表8 認定介護福祉士養成研修Ⅰ類カリキュラム (計：345時間)

履修科目 領域	科目	時間数
認定介護福祉士養成研修導入	認定介護福祉士概論	15
医療に関する領域	疾患・障害等のある人への生活支援・連携Ⅰ	30
	疾患・障害等のある人への生活支援・連携Ⅱ	30
リハビリテーションに関する領域	生活支援のための運動学	10
	生活支援のためのリハビリテーションの知識	20
	自立に向けた生活をするための支援の実践	30
福祉用具と住環境に関する領域	福祉用具と住環境	30
認知症に関する領域	認知症のある人への生活支援・連携	30
心理・社会的支援の領域	心理的支援の知識技術	30
	地域生活の継続と家族支援	30
生活支援・介護過程に関する領域	認定介護福祉士としての介護実践の視点	30
	個別介護計画作成と記録の演習	30
	自職場事例を用いた演習	30

表9 認定介護福祉士養成研修Ⅱ類カリキュラム (計：255時間)

履修科目 領域	科目	時間数
医療に関する領域	疾患・障害等のある人への生活支援・連携Ⅲ	30
心理・社会的支援の領域	地域に対するプログラムの企画	30
マネジメントに関する領域	介護サービスの特性と求められるリーダーシップ、人的資源の管理	15
	チームマネジメント	30
	介護業務の標準化と質の管理	30
	法令理解と組織運営	15
	介護分野の人材育成と学習支援	15
自立に向けた介護実践の指導領域	応用的生活支援の展開と指導	60
	地域における介護実践の展開	30

表10 今後求められる介護福祉士 基本研修の教材全体像及び教材使用の視点

<p>第1章 介護福祉士の専門性と職業倫理</p> <p>第1節 はじめに</p> <p>第2節 介護福祉士の専門性</p> <p style="text-align: center;">+</p> <p>図3、4と、表3、表7の対比を追記又は、別の教材にて説明し、日本介護福祉士会の示す介護福祉士の3つの専門性と、介護職の異なる点、求められる介護福祉士像の変更点を明確に示す。本研究から不十分な点として考察される、介護福祉士のキャリアパス、日本介護福祉士会の示すキャリア形成に関する研修に関する全体像及びその説明、指導・育成、環境整備、多職種連携、リーダー的な存在に求められるリーダーシップ、フォロワーシップ、メンバーシップ等の知識と技術に関して追記する。</p> <p style="text-align: center;">+</p> <p>第3節 専門職としての倫理の必要性</p> <p>第4節 専門職の職業倫理</p>

第5節 歴史にみる倫理的公準

第6節 おわりに

第2章 介護福祉士の法律と関連する制度政策

第1節 介護福祉士の資格制度成立

第2節 社団法人日本介護福祉士会設立に向けて～職能団体と介護福祉士の役割

第3節 法律上定められた介護福祉士の位置づけと義務について

第4節 介護福祉士と社会保障の関連制度

第3章 介護福祉士の仕事とコミュニケーション

第1節 コミュニケーションの目的

第2節 コミュニケーションの基礎知識

第3節 コミュニケーション技能を展開するうえで必要な基本的態度

第4節 介護職のコミュニケーション技法

第5節 コミュニケーションの具体的展開

第6節 利用者の特性に合ったコミュニケーション技術

第4章 介護福祉士の基本的態度

第1節 はじめに

第2節 介護と言葉遣い

第3節 時間と約束

第4節 人から見られている意識を大切にす

第5節 介護現場での基本的対応

第5章 介護福祉士のための介護技術

第1節 よりよい介護をめざした介護技術

第2節 移動の介助

第3節 食事の介助

第4節 排泄の介助

第5節 緊急時の対応

第6章 介護過程の展開

第1節 介護過程を学ぶ意義

第2節 介護過程の目的と理念

第3節 介護過程の構成要素

第4節 情報収集・アセスメントにおける留意点

第5節 介護計画の立案における留意点

+

『介護基本研修テキスト』の全ての内容を6章で使用又は、6章では下記の全てを加筆、修正する。

第1章 介護過程を展開する前提として

第1節 求められる介護福祉士像

第2節 生活支援としての介護の視点

第3節 自立支援の考え方

第4節 介護福祉士に求められる知識と技術

第2章 介護過程の基礎的理解

第1節 介護過程の意義と目的

第2節 介護過程の具体的な展開

第3節 介護過程とチームアプローチ

第3章 介護過程の展開の実際

第1節 演習を進めるにあたって

第2節 事例1「障害者支援施設で生活するAさんの事例」

第3節 事例2「介護老人福祉施設で生活するCさんの事例」

第4節 事例3「自宅で生活するEさんの事例」

資料

+

資料の中に、図2、表4、8、9を追記する。リーダー的な存在が求められているからこそ、書籍に記載がなかった日本介護福祉士会の示すキャリア形成研修の全体像及び、その中でも、特にファーストステップ研修に関する内容を紹介として丁寧に記載する。さらに、資料として、地域包括ケアシステムの構築を目指す中で、介護福祉士として、今後どのようなキャリアを目指すかによって、キャリアパスに基づいた研修を通して、介護ロボットの活用、ICTやIOTを活用した環境の整備や多職種連携、災害介護に関する事も、確実に修得することが望ましいことを紹介する。

注)本研究から、ファーストステップ研修に関しては、ガイドラインのみでなく、各領域、科目に関する共通の専門テキストを検討し、作成することは急務と考える。

ファーストステップ研修に関する丁寧な記載一例 ガイドラインからの抜粋
ファーストステップ研修の概要

I 「介護福祉士ファーストステップ研修」ガイドラインの作成目的と構成

II 「介護福祉士ファーストステップ研修」の実施枠組み

1 「介護福祉士ファーストステップ研修」の概要

2 研修の内容について

第7章 記録と報告

第8章 介護福祉士のための医学知識

第9章 福祉用具の意義と活用

V 結論

本研究から、今後の介護人材において、中核的な存在は、介護福祉士取得者であったとしても、リーダー的な存在となる介護福祉士は、キャリア形成研修（特にファーストステップ研修）を修了することが望ましいと考える。多様なルートから取得可能だからこそ、近年求められている知識と技術について研修にて補う必要性が高く、どのような研修が必要か、キャリア形成を明確に示す必要がある。さらに日本介護福祉士の示す介護福祉士の専門性という観点からも、多様なルートから取得可能な介護福祉士においては、介護福祉士基本研修、介護福祉士ファーストステップ研修の内容について、学修することは重要であり、研修受講を推奨する必要があると考える。しかしながら、今回の分析対象とした書籍に関しては、介護福祉士誕生から2011年の社会福祉士及び介護福祉士の改正までに、求められる内容が主である。

2025年、2035年に向けて、より多様な介護人材が必要となり、本研究の結果からも、介護福祉士の社会的役割は、介護人材としての一即戦力ではないと推察する。だからこそ、多様な介護人材の中で、リーダー的な介護福祉士を職場内に定着できるように構築することが重要である。確実にリーダーシップとは何かを理解し、指示型リーダーシップ、支援型リーダーシップ、奉仕型リーダーシップ等を理解し、小規模チームのリーダー的な存在を学ぶ

必要がある。さらに、基本研修の段階から、リーダーを支えるフォローシップ、メンバーシップの理解については、しっかりと身につける必要性が高いといえる。また、地域包括ケアシステムの構築を目指す中で、介護福祉士として、今後どのようなキャリアを目指すかによって、キャリアパスに基づいた研修を通して、介護ロボットの活用、ICTやIOTを活用した環境の整備や多職種連携、災害介護に関する事も、確実に修得することが望ましいと考える。

ますます超高齢社会となる日本において、社会的に期待されている介護福祉士は、介護福祉士の専門性を確実に介護福祉実践でき、今後求められる介護福祉士像を意識した人材となるように、教育、研修の仕組みを検討する必要がある。

最後に、本研究から得た課題の改善に向けては、各研修を運営している都道府県介護福祉士会の協力が必要である。各研修における受講実態を最も最前線で把握しているからこそ、研修教材の改善、開発する際、貴重な意見を持っていると考える。さらに、研修教材の改善、開発では、各都道府県介護福祉士と連携する介護福祉士養成校の教員とも共同することが重要である。介護福祉士の教育カリキュラムの見直し内容及び、介護福祉士基本研修や、ファーストステップ研修の運営の実態から、どのような研修教材が必要か、リーダー的介護福祉士を介護福祉現場に定着させるためには、ファーストステップ研修及び、認定介護福祉士の受講促進や構築を確実に検討し、取り組むことが急務である。前述については、本研究ではインタビュー調査や、アンケート調査を実施していない点が、今後の研究課題であり、本研究の限界点である。前述の取り組みが、今後進まない実態が存在する場合、介護福祉士基礎研修、介護福祉士ファーストステップ研修、認定介護福祉士制度といった介護福祉士のキャリア形成に関する研修は、抜本的な見直しが必要であり、多様なルートによって、介護福祉士という国家資格を取得できる仕組み自体を検討することが求められるといえよう。

文献

- 1)厚生労働省『介護福祉士及び社会福祉士制度の在り方に関する意見』社会保障審議会福祉部会 平成18年12月12日
(<http://www.mhlw.go.jp/shingi/2006/12/dl/s1212-4b01.pdf>)
- 2)社団法人日本介護福祉士会編集（2007）『介護福祉士初任者研修のための実践ガイドブック』中央法規
(<https://www.mhlw.go.jp/stf/shingi/2r9852000002ae5j-att/2r9852000002aedl.pdf>)
- 3)社会福祉法人全国社会福祉協議会（平成20年9月）『介護職員のキャリア形成支援の制度化に向けた提案 小規模チームのリーダー養成等を目的とした「介護福祉士ファーストステップ研修」』
(http://www.shakyo.or.jp/news/081113_2.pdf)
- 4)社会福祉法人全国社会福祉協議会（平成21年3月）『小規模チームのリーダー養成を目的とした介護福祉士ファーストステップ研修 ガイドライン～研修の企画、展開の指針』
(http://www.shakyo.or.jp/research/05_pdf/final_1ststep.pdf)
- 5) 中司登志美（2009）「介護福祉士現任者教育の抱える課題 介護福祉士ファーストステップ研修(広島県)をふまえて」『福祉健康学科研究 福山平成大学健康福祉学部紀要』4巻1号,1-8
- 6)岡田史（2011）「介護福祉専門職育成における専門職団体の役割と課題－新潟県介護福祉士会会員の研修ニーズに関する意識調査から」『新潟医療福祉学会誌』10巻2号,4-9
- 7)厚生労働省『福祉人材確保対策検討会における議論の取りまとめ』第1回社会保障審議会福祉部会 福祉人材確保専門委員会 平成26年10月27日資料3
(http://www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-12601000-Seisakutoukatsukan-Sanjikanshitsu_Shakaihoshoutantou/0000062880.pdf)
- 8) 厚生労働省『2025 年に向けた介護人材にかかる需給推計（確定値）について』社会・援護局福祉基盤課福祉人材確保対策室 平成 27 年 6 月 24 日
(https://www.mhlw.go.jp/file/04-Houdouhappyou-12004000-Shakaiengokyoku-Shakai-Fukushikibanka/270624houdou.pdf_2.pdf)
- 9) 厚生労働省『介護人材の機能に応じた育成のあり方について』第7回社会保障審議会福祉部会 福祉人材確保専門委員会 平成28年11月14日資料

- (http://www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-12601000-Seisakutoukatsukan-Sanjikanshitsu_Shakaihoshoutantou/0000142796.pdf)
- 10) 厚生労働省『介護福祉士の養成カリキュラム等について』第7回社会保障審議会福祉部会 福祉人材確保専門委員会 平成28年11月14日参考資料1
(https://www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-12601000-Seisakutoukatsukan-Sanjikanshitsu_Shakaihoshoutantou/0000142797.pdf)
- 11) 厚生労働省『介護人材における介護福祉士の役割に係る意見書』第7回社会保障審議会福祉部会 福祉人材確保専門委員会 平成28年11月14日参考資料2（公益社団法人日本介護福祉士会 会長 石本淳也）
(https://www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-12601000-Seisakutoukatsukan-Sanjikanshitsu_Shakaihoshoutantou/0000142798.pdf)
- 12)公益社団法人日本介護福祉士会（2016）『介護福祉士基本研修テキスト』中央法規
- 13)厚生労働省『求められる役割に適切に対応できる介護福祉士の育成方策』第11回社会保障審議会福祉部会 福祉人材確保専門委員会 平成29年9月26日石本委員提出資料（公益社団法人日本介護福祉士会 会長 石本淳也委員）
(https://www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-12601000-Seisakutoukatsukan-Sanjikanshitsu_Shakaihoshoutantou/0000178750.pdf)
- 14)野田由佳里・太田貞司・及川ゆりこ・鈴木俊文（2017）「ファーストステップ研修修了者追跡調査による研修効果及び介護職チームのリーダー・中堅介護福祉士の役割に関する研究」『聖隷クリストファー大学社会福祉学部紀要』15巻, 81-95
- 15)太田貞司（2017）「介護職の職能集団の形成とチームリーダー」『京都女子大学生活福祉学科紀要』12巻, 15-27
- 16) 厚生労働省『介護人材に求められる機能の明確化とキャリアパスの実現に向けて』
社会保障審議会福祉部会 福祉人材確保専門委員会 平成29年10月4日報告書
(https://www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-12601000-Seisakutoukatsukan-Sanjikanshitsu_Shakaihoshoutantou/0000179735.pdf)
- 17)牛田篤（2018）「特別養護老人ホームにおける介護福祉士のキャリア形成と実践に関する研究—ファーストステップ研修と求められる介護福祉士像12項目の意識調査から—」『福祉健康学科研究 福山平成大学健康福祉学部紀要』13巻1号,39-46

日本介護福祉士会の示す介護福祉士の専門性及び生涯研修体系に関する研修教材の課題

- 18) 牛田篤（2019）「介護福祉士ファーストステップ研修の受講意識と課題抽出に関する研究－介護福祉士を対象とした共起ネットワーク分析から－」『福祉健康学科研究 福山平成大学健康福祉学部紀要』14巻1号,13-20
- 19) 村上逸人（2019）「ファーストステップ研修参加者の研修に関する意識」『同朋大学論叢』第104号,119-131
- 20) 厚生労働省『介護分野の現状等について』平成31年3月18日報告書
(https://www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-12601000-Seisakutoukatsukan-Sanjikanshitsu_Shakaihoshoutantou/0000179735.pdf)
- 21) 牛田篤（2020）「介護福祉士の研修型人材育成に関する課題と今後の改善策の検討」『同朋大学論叢』105号,21-37
- 22) 認定介護福祉士認証・認定機構『認定介護福祉士 研修認証基準』
(http://www.nintei-kaishi.or.jp/files/training/kenshuninshokijun_20190326.pdf)

※ 「『同朋福祉』に関する内規」により「研究論文」として査読済み

(本学准教授：介護概論)